

「令和7年産 麦作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象の概要（2月10日～3月2日までの気象、平年と比較して）

- 平均気温…1.5℃低い。
- 降水量……少ない。（平年比 80.3%）
- 日照時間…長い。（平年比 116.5%）

2. 麦類の生育状況

（1）農試情報田の調査結果（2月28日付け 麦づくり情報第3号）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	17.5	979	7.0	45.6	[気象] 2/11～2/27まで ◆平均気温…平年より低い （平年差-2.1℃） ◆日照時間…長い（平年比 144%） ◆降水量…少ない（平年比 33%） [生育] ◆草丈 全品種・全作期において、過去10年間で最も低いレベル。 ◆茎数 11/20播「シロガネコムギ」は多く、その他は少ない。 ◆葉齢 11/20播「シロガネコムギ」はやや少なく、その他は少ない(-1.2～-2.1L)。 ◆葉色 (SPAD 値) 11/20播「シロガネコムギ」、両作期の「サチホゴールデン」は平年並み、12/10播「シロガネコムギ」はやや淡い、「はるか二条」は濃い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.7	757	7.3	46.2	
	平年比(差)	46	129	-0.3	-0.6		
	12/10	本年	9.4	557	5.0	46.5	
平年		26.6	685	6.2	48.4		
平年比(差)	35	81	-1.2	-1.9			
サチホゴールデン	12/2	本年	12.1	878	5.1	44.9	◆草丈 全品種・全作期において、過去10年間で最も低いレベル。 ◆茎数 11/20播「シロガネコムギ」は多く、その他は少ない。 ◆葉齢 11/20播「シロガネコムギ」はやや少なく、その他は少ない(-1.2～-2.1L)。 ◆葉色 (SPAD 値) 11/20播「シロガネコムギ」、両作期の「サチホゴールデン」は平年並み、12/10播「シロガネコムギ」はやや淡い、「はるか二条」は濃い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		4ヵ年平均	32.1	1199	7.2	44.6	
	前年比(差)	38	73	-2.1	+0.3		
	12/10	本年	11.1	802	5.0	44.9	
平年		22.9	929	6.3	45.7		
平年比(差)	48	86	-1.3	-0.8			
はるか二条	12/2	本年	12.3	741	5.2	49.8	◆草丈 全品種・全作期において、過去10年間で最も低いレベル。 ◆茎数 11/20播「シロガネコムギ」は多く、その他は少ない。 ◆葉齢 11/20播「シロガネコムギ」はやや少なく、その他は少ない(-1.2～-2.1L)。 ◆葉色 (SPAD 値) 11/20播「シロガネコムギ」、両作期の「サチホゴールデン」は平年並み、12/10播「シロガネコムギ」はやや淡い、「はるか二条」は濃い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		4ヵ年平均	30.0	1038	7.2	48.1	
	前年比(差)	41	71	-2.0	+1.7		
	12/10	本年	12.2	778	4.6	50.2	
7ヵ年平均		25.6	902	6.4	48.1		
平年比(差)	48	86	-1.8	+2.1			
留意点	◆2月以降気温は低く、降水量も少なく推移したことから、全般的に生育が停滞している。 ◆草丈、茎数は過去10年で最も少ないレベルの生育量となっている。葉齢も同様に少なく、幼穂形成始期は平年より7日程度遅い。今後、生育ステージや気象条件に応じた管理に心がける。①麦踏は茎立期まで可能であるが、節間伸長開始期以降の麦踏は、土壌水分が高ければ根の働きを阻害する可能性があるため控えること。②培土は耐寒性の向上や排水対策、雑草防除などの効果とともに肥効を高める効果があるため、穂肥施用後に実施すること。						

農試情報田の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	2/3	未	未	未
		前年	1/26	2/11	2/13	3/24
		平年	2/2	2/19	2/19	3/30
		平年差	+1	—	—	—
シロガネコムギ	12/10	本年	未	未	未	未
		前年	2/14	2/20	2/24	4/1
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
		平年差	—	—	—	—
サチホゴールド	12/2	本年	2/13	未	未	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/28
		平年	2/6	2/23	3/2	3/29
		平年差	+7	—	—	—
サチホゴールド	12/10	本年	2/18	未	未	未
		前年	2/2	2/20	2/20	3/31
		平年	2/12	3/3	3/5	4/3
		平年差	+6	—	—	—
はるか二条	12/2	本年	2/13	未	未	未
		前年	1/29	2/16	2/20	3/29
		平年	2/6	2/22	3/4	3/28
		平年差	+7	—	—	—
はるか二条	12/10	本年	2/18	未	未	未
		前年	2/1	2/20	2/20	3/31
		平年	2/11	2/27	2/28	4/1
		平年差	+7	—	—	—

(2) 三神管内の調査結果 (調査日: 3/3)

場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈 葉数(L)	備考 (平年と比較して)
上峰	シロガネコムギ	本年	11/23	177	27.9	781	6.6	・ 平年の播種日は11/15~12/8 ・ 草丈はやや高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育はやや進んでいる。 ◆ 幼穂長 2.2mm、節間長 25.1mm
		平年	11/26	157	27.1	676	6.5	
		平年比(差)	-3	113	103	115	+0.1	
吉野ヶ里	はる風ふわり	本年	11/25	125	21.2	716	6.4	・ 平年の播種日は11/15~11/19 ・ 草丈は低く、茎数は少ない。 ・ 葉齢から見た生育は遅れている。 ◆ 幼穂長 2.2mm、節間長 22.1mm
		4ヶ年平均	11/19	119	34.2	754	8.1	
		平均比(差)	+6	105	62	95	-1.7	
鳥栖	はるか二条	本年	11/22	145	22.5	726	7.0	・ 平年の播種日は11/20~27 ・ 草丈は低く、茎数はやや少ない。 ・ 葉齢から見た生育はやや遅れている。 ◆ 幼穂長 6.5mm、節間長 40.3mm
		5ヶ年平均	11/22	123	29.4	739	7.5	
		平均比(差)	±0	118	77	98	-0.5	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H26~H29及びR4~6の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から4ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から5ヶ年の平均値。

注4) 幼穂長及び節間長は、主茎の計3本を計測した平均値。

(3) 管内の生育概況

- ・ 今年と比べて気温がやや低く、降水量は少なかったことから、今年より生育がやや遅れている圃場が多く、草丈は今年より低く、葉齢は1~2葉程度遅れている。
- ・ 11月20日頃に播種された小麦及び11月中に播種された大麦では、茎立期頃となっている。
- ・ 今年の出穂期は、前年に比べてやや後退すると予想される。

〈佐賀農試：出穂期推定プログラム（3月3日時点、以降の気温は平年値で試算）〉

○はる風ふわり	○はるか二条
11/20 播種： 推定出穂期 4月6日	11/25 播種： 推定出穂期 3月30日
11/30 播種： 推定出穂期 4月10日	12/ 5 播種： 推定出穂期 4月5日
	12/15 播種： 推定出穂期 4月9日

※今後の気温によって出穂期は大きく変動するため、あくまで参考値とする。

3. 今後の管理

(1) 穂肥

- ・ 今年の生育は今年並みか今年より遅れているが、圃場によっては施用時期に入ってきている。天候を見ながら施用時期を逸しないように施用する。
- ・ 茎立期を迎えた圃場では、麦踏みと同時施用は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で全面散布を行う。その場合、施肥量を基準より1割程度増やす。
- ・ 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。
- ・ ビール大麦は、品質基準（粗タンパク質：10~11.0%）を満たすため、下記表を参考に穂肥を施用する。

(参考) サチホゴールドの穂肥診断基準（農試）

2月の月間降水量 (平年値：78mm)	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 (N成分/10a)
100mm以上	葉色にかかわらず 原則施用する	3 kg *
50mm~	42以下	3 kg *
100mm	43~45	3 kg
	46以上	2 kg
50mm以下	42以下	2 kg
	43以上	施用しない

今年の2月
降水量
45 mm

* 倒伏防止の観点から最大値は 3 kg/10aとする

(2) 穂揃期追肥（実肥）（4月上旬頃～）

- ・ 今年の小麦の出穂期は前年に比べてやや後退すると予想されるが、遅れないように穂揃期追肥を行う。
- 穂揃期：有効茎数の8~9割が出穂したころ

～穂揃期追肥を適期・適量実施することで目標タンパク値を目指しましょう～

特に、パン用小麦（「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」）では、タンパク含有率はパンの膨らみ等に関わる重要な事項であるため、必ず施用する。

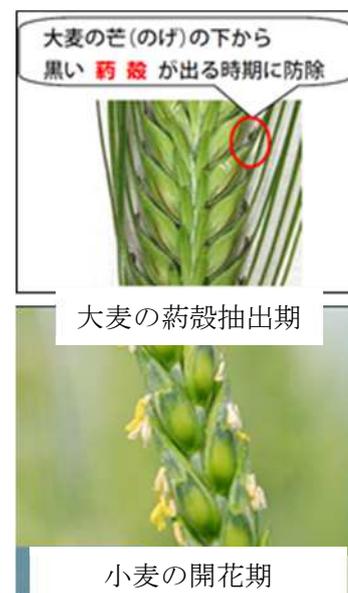
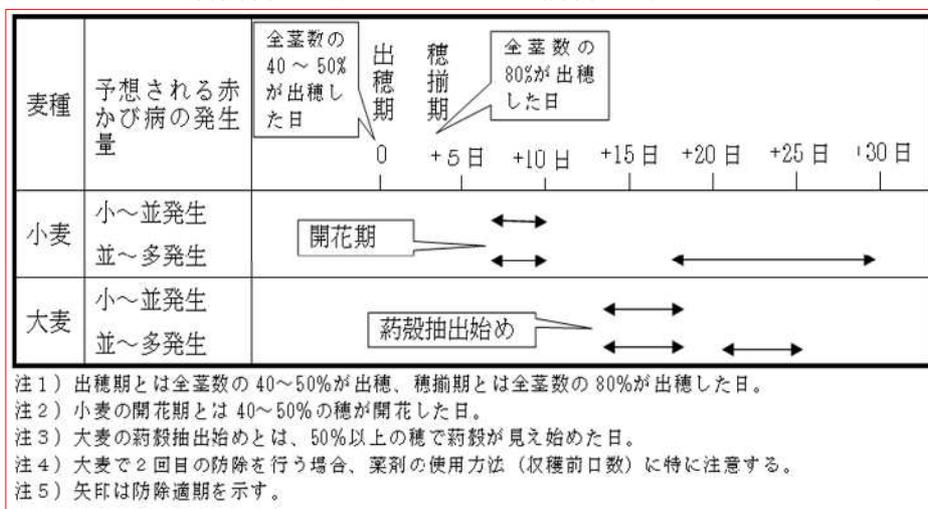
(参考) 穂揃期追肥の施肥基準目安

品種	穂揃期追肥 kg/10a			
	硫安の場合		尿素の場合	
前作	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
さちかおり	30	30	13	13
はる風ふわり	25	25	12	12
ミナミノカオリ	20	20	10	10
チクゴイズミ	10	10	5	5
シロガネコムギ	10	10	5	5

※シロガネコムギは、葉色が淡い場合（出穂期頃の SPAD 値が 40 以下）に施用する。

(3) 赤かび病防除

- ・赤かび病感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨（20～27℃）で経過すると激発する。
- ・赤かび病防除時期については、防除適期を逃さぬよう早めの準備を行う。



【大麦防除時期】

- ・葯殻抽出始め（出穂の約2週間後）に防除。
 - ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除7日後）。
- ※「はるか二条」「しらゆり二条」については2回防除をおこなう。
- ・トップジンM水和剤を大麦等で使用する場合、収穫30日前までの使用となっているので注意する。

【小麦防除時期】

- ・開花期（出穂の約7～10日後頃）に防除。
 - ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目の10～20日後）
- ※「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」については2回防除をおこなう。

(4) 網斑病防除（大麦のみ）

- ・一部の圃場で網斑病の発生が確認されている。今後、気温の上昇に伴い病斑の進展が予想される。
- ・登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、防除時期にチルト乳剤で防除する。（防除適期は出穂期、チルト乳剤は使用回数1回に留意）



大麦の網斑病

(5) 黄斑病対策（小麦のみ）

- ・ 昨年産で一部の圃場で黄斑病の発生が確認されている。
- ・ 降雨などによる多湿条件と 10℃以上の気温条件で伝染が助長され、発生が多いと減収・品質低下の原因となる。
- ・ 発病には品種間差が見られ、シロガネコムギは耐病性があるが、その他の品種は発病が多い傾向がある。
- ・ 昨年産で同病が多発した圃場において、夏作が水稻かつシロガネコムギ以外の品種を連作する場合は、発生状況に注意し、上位葉で病斑の進展が確認されるときは、出穂期にチルト乳剤で防除する。※赤かび病と防除時期が異なるので注意。



小麦の黄斑病

(6) 排水対策

- ・ 本年は平年より降水量が少ないが、定期的にまとまった降雨があったことから、一部の圃場では畝間に水がたまり、湿害による茎葉の黄化がみられる。
- ・ 今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように整えておく。
- ・ 特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

(7) 雑草対策

- ・ 一年生広葉雑草を中心に雑草の発生が目立つ圃場が一部でみられる。
- ・ すでに使用できない薬剤もあるので、処理時期に注意して早めの散布を行う。

生育期除草剤 使用例（大麦は散布可能時期を過ぎてている）

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a 当たり			
ハサグラン液剤	一年生雑草（イネ科を除く）	100～200ml	70～100L	雑草 3～6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで	1 回
ハーモニー 75DF 水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～10g	100L	小麦のみ 播種後～穂ばらみ期まで 収穫 45 日前まで	1 回
	ハーモニー75DF 水和剤使用上の注意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 ・ 薬害が生じやすいので周辺作物に注意 ・ 使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない ・ サーフアクタント30との併用を推奨 一年生広葉雑草の例 ミチヤナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカカフウロ、ノミノフスマ（ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い。）				

令和7年産 麦類生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀， データ更新日：3月3日)

三神農業振興センター

